

平成30年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

(平成29年度実績)

平成30年9月

石巻市教育委員会

平成30年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とあり、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と規定されております。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年教育委員会訓令第7号）

3 平成30年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

「石巻市教育振興基本計画実施計画」掲載事業のうち、平成29年度に実施した「石巻市総合計画実施計画」及び「石巻市震災復興基本計画実施計画」への掲載事業から、将来に渡り長期的に継続していくべき事業、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野で11事業、社会教育・保健体育分野で4事業の合計15事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、平成29年度における取組実績及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第3回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

平成30年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する
点検及び評価 対象事業一覧

番号	担当課	事業名
1	教育総務課	就学援助・特別支援教育就学奨励事業
2	学校教育課	適応指導教室運営事業
3	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
4	学校教育課	石巻・子どもの未来づくり事業
5	学校教育課	いじめ・生徒指導問題対策事業
6	学校教育課	学校図書館担当職員配置事業
7	学校教育課	国際理解教育推進事業
8	学校教育課	サイエンスラボ事業
9	学校教育課	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）
10	学校安全推進課	防災教育充実事業
11	学校管理課	学校給食センター運営事業
12	生涯学習課	協働教育推進事業
13	生涯学習課	放課後子ども教室推進事業
14	体育振興課	スポーツ振興事業
15	図書館	読書環境整備事業

平成30年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価に係る意見聴取会

1 開催日時 平成30年7月6日（金） 午後1時30分開会

2 開催場所 本庁舎6階 議会第3・4委員会室

3 学識経験者 2名

氏 名	役 職 等
横 澤 昌 憲 氏	元石巻市立石巻中学校校長
永 沼 紀 男 氏	元石巻市社会教育委員

4 意見聴取会の進め方

番号	内 容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について事務局より説明
2	・事業内容の説明 「平成30年度（平成29年度事業対象）教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の事業調査票について ①目的及び事業内容 ②取組実績 ③成果 ④成果に係る評価の順に担当課から説明
3	・質疑応答 学識経験者から取組実績等について質問を受け、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見聴取
※ 1事業ごとに番号2～4を繰り返し行う	
5	・学識経験者から全体を通しての総括的意見を聴取
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

5 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

横 澤 昌 憲 氏

平成 29 年度の 15 事業は、どれをとっても学校教育及び社会教育の推進に欠かせない重要な事業であると思います。そして、この取組の達成に向けて、一生懸命取り組んでいる様子が伝わってきました。

この中で気になったことが一つあります。点検及び評価報告書の平成 28 年度と平成 29 年度を比較すると、「目的及び事業内容」から「成果に係る評価」までの各項目において、平成 28 年度実績とほぼ同じ内容が多く見受けられたことです。

目的については、各事業それぞれのゴールなので、平成 28 年度と同じということは理解できます。ただ、取組実績や成果については同じでいいのだろうか。目的を達成するために重要な取組なので、あえて前年度を踏襲、継続するという事は考えられますが、全ての取組が前年度と同じで良いのかということです。同じ取組をすれば、成果の項目や内容も大体同じに出てくることは容易に推測できます。ということは、成果に係る評価も必然と同じようになるのではないかと思います。

大事なものは、目的を達成するためにどんな取組を行うのか。その結果、成果だけではなくどんな課題が出たのか。これを基に取り組み方の評価をして、出てきた課題をどうやって解決するか。次年度はその解決のためにどんな改善を目指せばよいか。これを明確にして次年度の取組に加えることによって、事業の目的達成に近づくのではないかと感じます。いわゆる、評価を踏まえた事業改善、取組改善ということです。

また、項目の設定について、例えば「成果」を「成果と課題」、「成果に係る評価」を「取組に係る評価」としてはいかがでしょうか。もしできるのであれば、項目の変更もご検討いただきたいと思います。このような資料を作るのであれば、しっかりと文字に表すことにより、良い資料、中身の濃い資料ができるのではないかと思います。

教育委員会には 80 近い事業があります。この事業を全て本気になって一生懸命にやりすぎると、体が持たないことも出てくるかと思っています。良い意味での効率化、省力化を図って、目標達成のために、最終的には教育委員会の下にいる学校、子どもたち、先生方や保護者等の市民のために、これからもご尽力いただければと思います。

永 沼 紀 男 氏

震災復興工事等の事業がまだ流動的な状況の中、評価した 15 事業で成果が出ていると思います。

昨年度の点検・評価でも強く感じましたが、我々市民は教育事業に対する協力姿勢がまだまだ不足しているし、他の市町や他県を見学しても遅れていると思いますし、保護者、家庭、地域等市民の協力があれば、もっと成果が上がったと思います。

個人的には、長い間社会教育等に関わってきて、これらのことを改める行動をしなかったことを猛省しています。市民のモラルアップ、人づくりや、石巻人の欠点とも言われる、批判はするが行動はしないことなどを改める必要があると痛感しています。

教育関連の事業は大変ですが、将来を見据え事業推進をお願いします。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

事業番号		1		事業名		就学援助・特別支援教育就学奨励事業																																																																																																
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標 2	安全に安心して学ぶための環境づくり	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																																																																																										
	2項 3項	小学校費 中学校費						第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		(1)	未来の人を育てる																																																																																										
	2目 4目	教育振興費 東日本大震災関係費			基本 施策 3	学習機会の平等		(3)	充実した教育を行える環境をつくる		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興																																																																																										
目的及び事業内容		<p>経済的な事情により就学が困難な児童生徒の保護者、東日本大震災により被災し就学困難となった児童生徒の保護者及び特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的な負担を軽減し、児童生徒の就学の機会を確保する。</p> <p>1 就学援助費 支給対象者：生活保護が過去1年以内に停止され、又は廃止された世帯児童扶養手当の支給を受けている世帯など</p> <p>2 被災児童生徒就学援助費 支給対象者：住居の被害状況が半壊以上の判定を受けた世帯原子力発電所の事故により避難してきた世帯など</p> <p>3 特別支援教育就学奨励費 支給対象者：特別支援学級に就学する児童生徒の保護者など</p>																																																																																																				
取組実績		<p>1 就学援助費 小学校：支給者数 643名 / 児童数 6,589名 (9.76%) 中学校：支給者数 441名 / 生徒数 3,760名 (11.73%)</p> <p>2 被災児童生徒就学援助費 小学校：支給者数 1,874名 / 児童数 6,589名 (28.44%) 中学校：支給者数 1,136名 / 生徒数 3,760名 (30.21%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>小学校(被災)</th> <th>中学校(被災)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>学用品費</td><td>8,405,980円</td><td>10,450,027円</td><td>24,797,520円</td><td>26,991,510円</td></tr> <tr><td>校外活動費(宿泊なし)</td><td>1,940,118円</td><td>221,378円</td><td>5,780,961円</td><td>450,019円</td></tr> <tr><td>校外活動費(宿泊あり)</td><td>311,955円</td><td>874,489円</td><td>1,183,698円</td><td>2,010,807円</td></tr> <tr><td>通学費</td><td>7,220円</td><td>0円</td><td>0円</td><td>0円</td></tr> <tr><td>新入学用品費</td><td>3,329,200円</td><td>6,730,800円</td><td>11,043,200円</td><td>16,969,200円</td></tr> <tr><td>新入学準備金</td><td>4,222,400円</td><td>5,356,200円</td><td>7,105,000円</td><td>9,622,200円</td></tr> <tr><td>修学旅行費</td><td>2,427,829円</td><td>8,853,785円</td><td>6,337,461円</td><td>25,337,057円</td></tr> <tr><td>給食費</td><td>27,369,534円</td><td>21,292,549円</td><td>80,856,030円</td><td>55,222,382円</td></tr> <tr><td>医療費</td><td>441,040円</td><td>238,530円</td><td>173,820円</td><td>91,340円</td></tr> <tr><td>計</td><td>48,455,276円</td><td>54,017,758円</td><td>137,277,690円</td><td>136,694,515円</td></tr> </tbody> </table> <p>3 特別支援教育就学奨励費 小学校：支給者数 96名 / 児童数 6,589名 (1.46%) 中学校：支給者数 51名 / 生徒数 3,760名 (1.36%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>学用品費</td><td>321,670円</td><td>368,280円</td></tr> <tr><td>校外活動費(宿泊なし)</td><td>36,917円</td><td>6,270円</td></tr> <tr><td>校外活動費(宿泊あり)</td><td>18,918円</td><td>44,124円</td></tr> <tr><td>通学費</td><td>448,147円</td><td>169,177円</td></tr> <tr><td>新入学用品費</td><td>142,100円</td><td>260,700円</td></tr> <tr><td>修学旅行費</td><td>80,563円</td><td>384,229円</td></tr> <tr><td>給食費</td><td>1,177,695円</td><td>802,650円</td></tr> <tr><td>交流学习交通費</td><td>2,040円</td><td>41,400円</td></tr> <tr><td>職場実習交通費</td><td>0円</td><td>5,161,820円</td></tr> <tr><td>通級指導教室通学費</td><td>113,466円</td><td>0円</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,341,516円</td><td>7,238,650円</td></tr> </tbody> </table>											小学校	中学校	小学校(被災)	中学校(被災)	学用品費	8,405,980円	10,450,027円	24,797,520円	26,991,510円	校外活動費(宿泊なし)	1,940,118円	221,378円	5,780,961円	450,019円	校外活動費(宿泊あり)	311,955円	874,489円	1,183,698円	2,010,807円	通学費	7,220円	0円	0円	0円	新入学用品費	3,329,200円	6,730,800円	11,043,200円	16,969,200円	新入学準備金	4,222,400円	5,356,200円	7,105,000円	9,622,200円	修学旅行費	2,427,829円	8,853,785円	6,337,461円	25,337,057円	給食費	27,369,534円	21,292,549円	80,856,030円	55,222,382円	医療費	441,040円	238,530円	173,820円	91,340円	計	48,455,276円	54,017,758円	137,277,690円	136,694,515円		小学校	中学校	学用品費	321,670円	368,280円	校外活動費(宿泊なし)	36,917円	6,270円	校外活動費(宿泊あり)	18,918円	44,124円	通学費	448,147円	169,177円	新入学用品費	142,100円	260,700円	修学旅行費	80,563円	384,229円	給食費	1,177,695円	802,650円	交流学习交通費	2,040円	41,400円	職場実習交通費	0円	5,161,820円	通級指導教室通学費	113,466円	0円	計	2,341,516円	7,238,650円
	小学校	中学校	小学校(被災)	中学校(被災)																																																																																																		
学用品費	8,405,980円	10,450,027円	24,797,520円	26,991,510円																																																																																																		
校外活動費(宿泊なし)	1,940,118円	221,378円	5,780,961円	450,019円																																																																																																		
校外活動費(宿泊あり)	311,955円	874,489円	1,183,698円	2,010,807円																																																																																																		
通学費	7,220円	0円	0円	0円																																																																																																		
新入学用品費	3,329,200円	6,730,800円	11,043,200円	16,969,200円																																																																																																		
新入学準備金	4,222,400円	5,356,200円	7,105,000円	9,622,200円																																																																																																		
修学旅行費	2,427,829円	8,853,785円	6,337,461円	25,337,057円																																																																																																		
給食費	27,369,534円	21,292,549円	80,856,030円	55,222,382円																																																																																																		
医療費	441,040円	238,530円	173,820円	91,340円																																																																																																		
計	48,455,276円	54,017,758円	137,277,690円	136,694,515円																																																																																																		
	小学校	中学校																																																																																																				
学用品費	321,670円	368,280円																																																																																																				
校外活動費(宿泊なし)	36,917円	6,270円																																																																																																				
校外活動費(宿泊あり)	18,918円	44,124円																																																																																																				
通学費	448,147円	169,177円																																																																																																				
新入学用品費	142,100円	260,700円																																																																																																				
修学旅行費	80,563円	384,229円																																																																																																				
給食費	1,177,695円	802,650円																																																																																																				
交流学习交通費	2,040円	41,400円																																																																																																				
職場実習交通費	0円	5,161,820円																																																																																																				
通級指導教室通学費	113,466円	0円																																																																																																				
計	2,341,516円	7,238,650円																																																																																																				
成果		<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な事情により就学が困難な児童生徒の保護者、東日本大震災により被災し就学困難となった児童生徒の保護者及び特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的な負担を軽減し、児童生徒の就学の機会を確保することができた。 ・被災者の再建状況を踏まえ、被災児童生徒就学援助費の認定基準について検討し、平成30年度より認定基準に所得要件を加え、均等な教育機会の提供ができるよう見直しを行った。 ・就学援助の新入学学用品費について、ランドセルや制服等の購入で出費がかさむ入学前に、新入学準備金を支給できるよう要綱等を改め、児童生徒の保護者の就学前の経済的不安や負担軽減を図った。 																																																																																																				
成果に係る評価		<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な事情により就学が困難な児童生徒や特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者に対し、経済的な援助を行うことは、すべての児童生徒の就学の機会を確保するために重要なことであり、今後も法令に則り必要な支援を継続していく必要がある。 																																																																																																				

事業番号		1		事業名		就学援助・特別支援教育就学奨励事業						
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標2	安全に安心して学ぶための環境づくり	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	2項 3項	小学校費 中学校費						第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		(1)	未来の人を育てる
	2目 4目	教育振興費 東日本大震災関係費			基本施策3	学習機会の平等		(3)	充実した教育を行える環境をつくる		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興
	<p>【横澤昌憲氏】 新入学準備金の入学前支給は、家庭にとって非常に助かるものと思うので、大いに評価します。 所得格差は社会問題となっており、日本のGDPは世界でも上位だが、ひとり親家庭の貧困率も上位という二極化の状態のようです。貧困は必ず子どもに影響するため、もっと充実した事業となるよう継続して国への要望をお願いします。 また、隠れた該当者について、一番に気付くのは学級担任かと思います。保護者への関わり方は管理職の後押しも大事になってくるので、今後も学校に指導してほしいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 震災から7年目となり財政面が心配ですが、この事業は必要なことなので、将来的な見通しを考えながら続けられるようお願いします。</p>											
(単位：円)												
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳						
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源			
		390,335,690	386,025,405	279,348,205	0	0	106,677,200					

事業番号		2		事業名		適応指導教室運営事業																					
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																
	1項	教育総務費			基本施策7	不登校児童生徒対策の充実		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																
	3目	教育指導奨励費						(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																
目的及び事業内容		<p>不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。</p> <p>1 通所児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携 2 児童生徒の実態等に応じた学習指導 3 望ましい人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実</p>																									
取組実績		<p>1 通所児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携 通所児童生徒や保護者との定期的教育相談や懇談会を行ったほか、機会を捉えての相談等も行って悩み等に受容的に対応した。</p> <p>2 児童生徒の実態等に応じた学習指導 (1) 通所児童生徒一人ひとりの実態や学年を踏まえ、個に応じた指導・支援を行った。 (2) 在籍校との連携を深め、学級担任との連絡を密に行ったほか、適応指導教室での定期考査受験や学校で使用しているプリントでの学習などにより、帰属感の育成が図られた。</p> <p>3 望ましい人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実 絵手紙教室、英会話教室、書道教室、調理実習、スポーツ教室、清掃活動等の体験活動を通して、仲間とともに活動する楽しさや一体感の醸成が図られた。</p>																									
成果		<p>適応指導教室における個に応じた学習支援により、学習することの楽しさや自己有用感を味わい、自信をもつことができた児童生徒がいた。特に中学3年生は「進学」という明確な目標ができ、積極的に学習に取り組めた。また、親身な教育相談活動や充実した体験活動により、対人関係の苦手意識を少しずつ克服することができた児童生徒がいた。さらに、保護者や学校との連携を密にすることにより、児童生徒の再登校の意欲を高め、前年度より部分登校した生徒が増え、再登校（学校復帰）を果たした生徒もいた。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数</td> <td>31件</td> <td>75件</td> <td>89件</td> </tr> <tr> <td>通所児童生徒の再登校率</td> <td>0.0%</td> <td>14.3%</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>通所児童生徒の部分登校率 (再登校者を含む)</td> <td>22.2%</td> <td>57.1%</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>										主な指標項目	H27	H28	H29	不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数	31件	75件	89件	通所児童生徒の再登校率	0.0%	14.3%	12.5%	通所児童生徒の部分登校率 (再登校者を含む)	22.2%	57.1%	75.0%
主な指標項目	H27	H28	H29																								
不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数	31件	75件	89件																								
通所児童生徒の再登校率	0.0%	14.3%	12.5%																								
通所児童生徒の部分登校率 (再登校者を含む)	22.2%	57.1%	75.0%																								
成果に係る評価		<p>県教委が実施する「みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業」の採択を受けて2年目となり、「石巻市子どものサポートハウス」が周知され、昨年度に比べ更に相談件数が増加した。また、適応指導教室に通所できた児童生徒の中には、部分登校や再登校までこぎつけた児童生徒も増加し、支援の効果が表れている。一方で、適応指導教室との相談や体験通所にまでつなげることが難しい状況の不登校児童生徒も多く、さらには、適応指導教室に通所することで満足してしまっているような児童生徒や保護者もいると考える。心のサポーターによる訪問支援など、きめ細やかな支援の強化と共に、適応指導教室に通所することが目的ではなく、学校復帰のための一手段として効果的に利用できることを、不登校で悩んでいる児童生徒や保護者に対し、広く周知することが必要である。</p>																									
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 人間関係づくりが上手ではない子どもや、集団に適応できない子どもにとって大事な事業です。けやき教室がないと子どもたちの行き場がなくなるため、重要な施設として位置付けられると思います。本教室に来る子どもたちの数が少なくなればよいのですが、課題を抱えた子どもの利用促進や利用する子どもの活動のさせ方を工夫して、さらに充実した事業にしてほしいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 事業の対象となる児童生徒の将来がかかっていると思いますので、大変だとは思いますが、継続できるよう頑張っていただきたいと思います。</p>																									
予算の執行状況		(単位：円)																									
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																							
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																				
5,550,000	5,201,597			108,000	5,093,597																						

事業番号		3		事業名		特別支援教育支援員配置事業					
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1 基本施策6	社会を生き抜く力の養成 特別支援教育の充実	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()
	1項	教育総務費						第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()
	3目	教育指導奨励費						(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()
目的及び事業内容		<p>通常の学級に在籍している発達障害がある児童生徒の日常生活支援及び学習指導補助を行うため、学校に支援員を配置する。</p> <p>1 小・中学校への支援員の配置 2 当該児童生徒への支援の工夫</p>									
取組実績		<p>1 支援員の配置状況 市内小・中学校 31校に79人配置（平成26年度 31校 55人、平成27年度 28校 55人、平成28年度 30校 76人） 石巻小、住吉小、湊小、釜小、山下小、蛇田小、渡波小、稲井小、向陽小、貞山小、開北小、万石浦小、大街道小、中里小、鹿妻小、飯野川小、大谷地小、広淵小、須江小、北村小、前谷地小、和淵小、鹿又小、中津山第一小、中津山第二小、桃生小、北上小、湊中、蛇田中、万石浦中、桃生中</p> <p>2 通常の学級における当該児童生徒への支援 配置された支援員は、通常の学級に在籍する、知的障害、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症、選択的緘黙等の子どもたちへの学習・生活支援を行うとともに、担任教員の指導を補助している。各学校では、日常的に打合せをもったり、学級や個人への支援のあり方について研修したりするなどして、支援員の意識の強化やスキルの向上を図り、支援体制の充実につなげている。</p> <p>3 特別支援教育支援員研修会の実施 支援員を対象に、東松島市立宮野森小学校教諭を講師として招聘し、「ちょっとだけ～発達障害の特性と支援のあり方～」という演題で研修会を開催した。また、分科会に分かれて、児童生徒への日常支援の様子や勤務上の悩み等について情報交換を行った。</p>									
成果		<p>年々、通常学級に在籍する発達障害等の支援を要する児童生徒数が増加し、各校においては、より細やかな支援の実現に向け、校内体制の充実に努めている。そうした中、特別支援教育支援員の存在は大きく、学校組織において大きな役割を果たしている。具体的には、支援員配置校において、配慮を要する児童生徒の実態に応じた学習・生活指導を進めることが可能となり、個々の能力の伸長が図られた。さらに、当該児童生徒のみならず、周囲の子どもたちの成長を促すことにもつながった。こうした効果により、担任等教職員からは、支援員配置を望む声が多く寄せられている。同様に、保護者からの、支援員の継続的な配置や新規支援員の配置に関する要望も増加傾向にある。</p> <p>研修会の実施により、支援員としての職責の意識化や、支援に向けてのスキルの向上が図られた。さらに、支援員相互の情報交換を行ったことで、職務への意欲の喚起やネットワークづくりを進めることができた。</p>									
成果に係る評価		<p>インクルーシブ教育システムの一層の推進が求められる中、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒の「共に学ぶ」機会を支える特別支援教育支援員の果たすべき役割は大きい。通常学級に在籍する障害のある児童生徒は、支援員のサポートを受け、自己の能力の育成を図るとともに、周囲の子どもたちとの交流の機会を保障され、相互にかかわることの喜びや心地よさを感じながら、社会性を身に付けていくことができる。一方、障害のない児童生徒も、「共に学ぶ」ことから、障害に関する理解や自己・他者理解を深めることができる。</p> <p>本市における特別支援教育支援員配置事業では、そうした成果を得ることにつながっており、子どもたちに将来の共生社会を築く素地を形成するための重要な事業と位置付けられる。実際、学校現場や保護者からも本事業の拡充を望む声が多く寄せられている現状も認められ、今後も、支援員配置人数の拡充や質的な向上を目指していく必要がある。</p>									
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 発達障害等のある子どもに応じた関わり方や援助、他の子どもへの影響、学級担任等に掛かる負担の軽減などを考えると重要な事業であると思います。これからも充実をお願いします。 また、支援員の校外研修は大事なことです。ケース会議等を含めた校内での研修やOJTについても、充実を図ってほしいと思います。学校現場は大変かもしれませんが、教員による支援員の指導も定期的に行なわれると、さらに力量向上につながると思います。 市教委としても支援員の確保にさらに尽力してほしいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 大変な仕事ですから、効果のある工夫と努力は大いに評価できると思います。潜在する子どもたちが出てくる可能性もあるので、今後も頑張ってください。</p>									

事業番号		3		事業名		特別支援教育支援員配置事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1項	教育総務費		基本施策6	特別支援教育の充実		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
(単位：円)											
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳					
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
		82,579,180	80,151,066				80,151,066				

事業番号		4		事業名		石巻・子どもの未来づくり事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1項	教育総務費		基本施策1	確かな学力の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
目的及び事業内容		<p>石巻市立小・中学校長会と連携し、児童生徒の学力の定着と向上を通し、未来を生きる力の育成を図る。</p> <p>1 子どもの未来づくり推進委員会の設置 「教師の指導力の向上」、「児童生徒の学習習慣の形成」、「志を高める取組を小中連携により充実」の具体的方策について検討し、事業を行う。</p> <p>2 小・中学校長会との連携 支会校長会ごとに本事業の目的達成のための計画を立て実践する。</p> <p>3 子どもの未来づくり推進地区連絡協議会の設置 各地区の取組内容について情報交換し、より効果的な方策を検討する。</p>									
取組実績		<p>1 子どもの未来づくり推進委員会の設置取組 (1) 学力調査結果の分析等に基づき、学校と家庭との連携や家庭学習習慣形成の在り方等について検討し、中学校区ごとに家庭学習の進め方について、リーフレットを作成し働きかけた。 (2) 子どもの未来づくりフォーラムを1回、子どもの未来づくり講演会・実践報告会を1回実施し、児童生徒、保護者、教員がともに話し合い、意識を高めた。 (3) 家庭学習・生活習慣リーフレットの内容及び活用状況を検証し、内容を改善していくことを確認した。 (4) 子どもの未来づくり推進地区・実践校の取組状況や成果を「事業報告書、実践事例集」にまとめ、活用を図った。 (5) 志を強くもって生き抜くための具体的な実践として、小・中学校が連携して運動会（体育祭）や体験活動の交流会等を実施した。</p> <p>2 小・中学校との連携及び子どもの未来づくり推進地区の取組 (1) 学力向上のため、学校と家庭との連携や家庭学習習慣形成等の実践研究を実施した。 (2) 地区内での情報共有や共同実践について話し合い、講演会や研修会を実施した。 (3) 実践成果発表会において、各地区の取組について発表し、情報を共有した。</p> <p>3 教師の指導力向上、学習指導の改善を図る取組 (1) 推進モデル校を定め、大学教授を招いての学習指導の改善を図る研修会を14回実施した。</p>									
成果		<p>1 各地区の小中学校と中学校が合同で研修会や授業研究会を実施し、小・中連携の推進が図られた。</p> <p>2 地区の特性に合致した、専門性の高い講師による研修会を実施する地区が増え、研修の充実を図ることができた。</p> <p>3 家庭学習カードなどを各地区や中学校区ごとに工夫し、活用を通して、学校と家庭が連携する必要性について各地区全体で啓発が図られた。</p> <p>4 それぞれ工夫し、被災によって連携事業が困難となった学校でも連携を行った。</p> <p>5 学習指導の改善を図る研修会に基づく取組は、市内の全ての小・中学校において行われた。</p>									
成果に係る評価		<p>年14回実施した「学習指導の改善を図る研修会」の内容に応じた取組が各校や各中学校区で実践され、各推進地区内におけるほとんどの小・中学校で、教員が互いに授業参観や授業検討会等を実施しており、教師の指導力の向上が図られた。また、児童生徒の学習習慣の形成についても、家庭学習カードの活用やリーフレット「5つのトライ」を配布した結果、小・中9年間を見通して実践を行う地区も増え、小学校高学年、中学校1・2年生に対する調査でも、家庭学習の定着が見られるようになった。しかし、取組時間や質については各学校、各地区ごとにばらつきがあることから、子どもの未来づくりフォーラムや実践報告会において、成果があった取組を共有し、本事業について更に啓発して充実した実践に結びつける必要がある。</p>									
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 本事業は腰を据えて長期間継続して取り組む必要があり、大事な事業であると思います。教師の指導力の向上、子どもの学習習慣の形成、小中連携という3つの大きな柱がありますが、例えばその柱の中で各支会、各地区において具体的施策を決めて実践する。その結果を市全体で共有し、うまくいった施策を他の地区でもやってみるといったようなことも必要かと思います。市教委としては、ある程度の枠を作り、細かいところは各地区の実態に応じて具体的施策等を入れてもらうことも行ってはどうかと思いました。</p> <p>【永沼紀男氏】 大変な作業量だと思います。総花的になるのが心配だが、実効性と継続性を望みます。</p>									

事業番号		4		事業名		石巻・子どもの未来づくり事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1項	教育総務費		基本施策1	確かな学力の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
(単位：円)											
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳					
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
		5,200,000	4,584,672			1,000,000	3,584,672				

事業番号		5		事業名		いじめ・生徒指導問題対策事業																								
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																				
	1項	教育総務費		基本施策2	豊かな心の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																				
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																				
目的及び事業内容		<p>いじめや不登校、その他の生徒指導に関する問題に組織的に対応するため、関係機関等との連携を推進するほか、教員や保護者対象の研修を通して「いじめを許さない風土づくり」を進め、いじめの未然防止及び早期解決を図る。</p> <p>1 いじめ問題対策連絡協議会、生徒指導問題対策協議会の実施 2 いじめの防止や生徒指導上の諸問題の解決にかかる研修会、講演会の実施 3 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 4 「S t o p いじめ！石巻市子どもサミット」の実施</p>																												
取組実績		<p>1 いじめ問題対策連絡協議会、生徒指導問題対策協議会 市内のいじめの諸問題、生徒指導問題について、各3回の情報交換を行ったほか、有効な連携の在り方について協議した。</p> <p>2 いじめの防止や生徒指導上の諸問題の解決にかかる研修会の実施 (1) 生徒指導上の基本である学級づくり、人間関係づくりについての講演会を市内教職員・保護者を対象に実施した。 (2) いじめ問題の根幹にかかわる人権について、市内教職員・保護者を対象に弁護士を招いて講演会を開催した。</p> <p>3 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 いじめ防止標語（小・中・高）、いじめ防止メッセージ（中・高）を募集し、メッセージ集を作成して各学校や関係機関に配布し、意識啓発に努めた。</p> <p>4 「S t o p いじめ！石巻市子どもサミット」は、市内全中学校の代表が参加し、いじめの防止について話し合いを行った。</p> <p>5 いじめの重大事案に対応するため、石巻市いじめ問題対策調査委員会を設置し、情報交換、重大事態が起きた際の対応検討等を行った。</p>																												
成果		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>いじめの件数</th> <th>解消件数</th> <th>解消率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>230件</td> <td>189件</td> <td>82.2%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>103件</td> <td>69件</td> <td>67.0%</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>334件</td> <td>259件</td> <td>77.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記は文部科学省実施の平成29年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査による。</p>									区分	いじめの件数	解消件数	解消率	小学校	230件	189件	82.2%	中学校	103件	69件	67.0%	高校	1件	1件	100.0%	計	334件	259件	77.5%
区分	いじめの件数	解消件数	解消率																											
小学校	230件	189件	82.2%																											
中学校	103件	69件	67.0%																											
高校	1件	1件	100.0%																											
計	334件	259件	77.5%																											
成果に係る評価		<p>いじめの認知件数については各学校において、意識を高くして児童生徒の見守りをし、組織的に早期発見、早期解決に向けて取り組んだ成果であると捉えている。また、解消率の低下については、安易に解決することなく、長期的に丁寧な見守りと指導を継続している結果であると捉える。今後も、未然防止に向けての取組が必要であり、いじめについては積極的に認知し、学校をあげて組織的に解決、解消に努めることが大切である。ネットトラブル等、目に見えにくい問題も懸念される。児童生徒同士の間関係づくり（石巻市子どもの未来づくり事業の取組）や日ごろの道徳の時間の指導に重点を置き、学校のすべての活動において道徳教育の充実に全力で取り組むよう各学校に働き掛ける。また、これまでに以上に教員のもつアンテナを高くしながら、子どもたちの様子等を把握していく必要がある。</p>																												
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 いじめや不登校、生徒指導上の諸問題の未然防止、早期発見、早期解決を図るためには、欠かせない事業だと思います。更なる継続と充実をお願いします。 見守りを3か月は行うとのことですが、丁寧にしっかりと関わるためには、時間は関係ないと思います。一番は未然防止ですが、見つけたらすぐ動くこと。様子を見ているだけでは解決の遅れにつながります。もしかすると、それを混同している学校もあるような感じがしてなりません。 そのためには、管理職のリーダーシップが大事であり、担任や学年に任せるだけではなく学校全体で情報を共有し、校長・教頭がどう動くかによって早期解決に関係してくるような気がします。改めて学校現場の方に、特に管理職に指導してほしいと思います。 また、予算額に対する決算額がかなり低く、必要時にいじめ問題対策調査委員会等を開くためとのことですが、適時適切に検討していただきたいです。</p>																												

事業番号		5		事業名		いじめ・生徒指導問題対策事業				
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()
	1項	教育総務費		基本施策2	豊かな心の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()
学識経験者からの意見		<p>【永沼紀男氏】</p> <p>校内でのいじめについては、学校現場で情報収集し対策できると思いますが、潜在的要因になると思われる校外でのいじめについては、情報収集の方法を更に工夫して、効率よく取り組んでいく必要があるのではないかと思います。</p>								
(単位：円)										
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳				
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
		3,120,000		535,328		38,000				497,328

事業番号		6		事業名		学校図書館担当職員配置事業																																																																																																
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1 社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																																																																												
	1項	教育総務費					第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																																																																																												
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																																																																																												
目的及び事業内容		<p>各校の図書館担当教諭と協働し、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資する。</p> <p>1 学校図書館担当職員（学校司書）の配置 2 学校図書館担当職員（学校司書）研修等の実施</p>																																																																																																				
取組実績		<p>平成28年度から学校司書のモデル配置を開始。平成29年度は担当職員（学校司書）、配置校数を拡大し配置を行った。</p> <p>1 学校図書館担当職員（学校司書）の配置状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>学 校 数</td> <td>6 (小4・中2)</td> <td>12 (小8・中4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 学校図書館担当職員（学校司書）研修等の実施 石巻市図書館司書及び外部講師等を指導者とし、研修日を設定して実施 内容：初任者研修1回（4日間）、図書の配架・書架整理等の実技研修、情報交換3回（各1日）等</p>										年 度	H28	H29	人 数	3	6	学 校 数	6 (小4・中2)	12 (小8・中4)																																																																																		
年 度	H28	H29																																																																																																				
人 数	3	6																																																																																																				
学 校 数	6 (小4・中2)	12 (小8・中4)																																																																																																				
成 果		<p>学校図書館に対し求められる3つの役割 ①読書活動の拠点となること（読書センター）②授業に役立つ資料を備え学習支援を行うこと（学習センター）③情報活用能力をはぐくむこと（情報センター）が十分に果たせるよう、学校図書館の整理や絵本の読み聞かせ、調べ学習のコーディネーター役などをこなし、学校図書館の利活用の向上に繋がった。</p> <p>■図書貸出実績（H28から配置の6校分合計） H28 19,328 冊 H29 34,731 冊</p> <p>参考 <図書の整備冊数の状況（全小・中学校）> ※寄贈含む</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>17,276冊</td> <td>24,512冊</td> <td>25,027冊</td> <td>19,974冊</td> <td>15,692冊</td> <td>24,499冊</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>7,832冊</td> <td>17,497冊</td> <td>12,477冊</td> <td>12,314冊</td> <td>9,523冊</td> <td>9,056冊</td> </tr> </tbody> </table> <p><全小学校図書充足率達成状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>達成率</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%以上</td> <td>9校</td> <td>12校</td> <td>11校</td> <td>13校</td> <td>16校</td> <td>26校</td> </tr> <tr> <td>75%以上-100%未満</td> <td>10校</td> <td>14校</td> <td>18校</td> <td>17校</td> <td>17校</td> <td>6校</td> </tr> <tr> <td>50%以上-75%未満</td> <td>18校</td> <td>11校</td> <td>8校</td> <td>5校</td> <td>2校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>50%未満</td> <td>5校</td> <td>2校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table> <p><全中学校図書充足率達成状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>達成率</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%以上</td> <td>2校</td> <td>3校</td> <td>3校</td> <td>2校</td> <td>6校</td> <td>7校</td> </tr> <tr> <td>75%以上-100%未満</td> <td>4校</td> <td>5校</td> <td>7校</td> <td>11校</td> <td>7校</td> <td>7校</td> </tr> <tr> <td>50%以上-75%未満</td> <td>12校</td> <td>9校</td> <td>6校</td> <td>5校</td> <td>6校</td> <td>5校</td> </tr> <tr> <td>50%未満</td> <td>3校</td> <td>3校</td> <td>4校</td> <td>2校</td> <td>1校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table>										年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	小学校	17,276冊	24,512冊	25,027冊	19,974冊	15,692冊	24,499冊	中学校	7,832冊	17,497冊	12,477冊	12,314冊	9,523冊	9,056冊	達成率	H24	H25	H26	H27	H28	H29	100%以上	9校	12校	11校	13校	16校	26校	75%以上-100%未満	10校	14校	18校	17校	17校	6校	50%以上-75%未満	18校	11校	8校	5校	2校	2校	50%未満	5校	2校	0校	0校	0校	0校	達成率	H24	H25	H26	H27	H28	H29	100%以上	2校	3校	3校	2校	6校	7校	75%以上-100%未満	4校	5校	7校	11校	7校	7校	50%以上-75%未満	12校	9校	6校	5校	6校	5校	50%未満	3校	3校	4校	2校	1校	0校
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																
小学校	17,276冊	24,512冊	25,027冊	19,974冊	15,692冊	24,499冊																																																																																																
中学校	7,832冊	17,497冊	12,477冊	12,314冊	9,523冊	9,056冊																																																																																																
達成率	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																
100%以上	9校	12校	11校	13校	16校	26校																																																																																																
75%以上-100%未満	10校	14校	18校	17校	17校	6校																																																																																																
50%以上-75%未満	18校	11校	8校	5校	2校	2校																																																																																																
50%未満	5校	2校	0校	0校	0校	0校																																																																																																
達成率	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																
100%以上	2校	3校	3校	2校	6校	7校																																																																																																
75%以上-100%未満	4校	5校	7校	11校	7校	7校																																																																																																
50%以上-75%未満	12校	9校	6校	5校	6校	5校																																																																																																
50%未満	3校	3校	4校	2校	1校	0校																																																																																																
成果に係る評価		<p>未整理だった図書の分類整理ができたことで、図書館機能が向上し雰囲気も明るくなり（レイアウトの変更、推奨本コーナーの設置、バーコード機能の導入等）、児童生徒の利用者数や貸出し数が増加した。今後も学校司書の能力の向上を図るとともに配置校の拡大に努める。</p>																																																																																																				
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 子どもの豊かな心を育てるに当たって、学校図書館は大事な施設と捉えております。施設も含め事業の充実を図ろうとする思いが伝わってきます。 平成29年度には担当職員が倍に、貸出実績も約1.5倍に増えていることを見れば、市教委の取組は評価ができると思います。更に充実してほしいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 学校司書の配置工夫により、学校図書館が好きな児童生徒が増えることを期待します。余り図書館にこない子どもたちが、できるだけ本を好きになるような方法を工夫してほしいと思います。</p>																																																																																																				

事業番号		6		事業名		学校図書館担当職員配置事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1項	教育総務費		基本施策1	確かな学力の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3目	教育指導奨励費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
(単位：円)											
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳					
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
		6,944,000	6,389,792				6,389,792				

事業番号		7		事業名		国際理解教育推進事業															
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()										
	1項	教育総務費			基本施策5	現代社会に対応した教育の推進		第3節	新たな時代を創造する人材を育成する		()										
	3目	教育指導奨励費						(1)	広い視野を持つ人材をはぐくむ		()										
目的及び事業内容		<p>幼稚園、小・中学校及び高等学校におけるA L T（外国語指導助手）を活用しての授業や交流を通して外国語教育と国際理解教育の充実を図る。</p> <p>1 市立中学校、高等学校における外国語教育の充実 2 市立小学校における外国語活動の充実 3 市立幼稚園、こども園、けやき教室における国際理解教育の推進</p>																			
取組実績		<p>1 市立中学校・高等学校 市立全ての幼・小・中・高を12のブロックに分け、それぞれに1名ずつA L Tを配置し、中学校、高校に年間約120日派遣した。一学級のA L T配置率は平均約30%で、概ね4時間に1回の割合で英語教員とのT Tが行われた。 3名のJ E T-A L Tと9名の民間A L T（業務委託）を配置しており、J E TプログラムのA L Tについては、部活動等課外活動にも意欲的に取り組み、授業以外の場面でも生徒と積極的に接した。また、学校での業務のほか、広域行政事務組合「おにぎり大使派遣事業」の英語事前研修の講師、地域振興課事業に参加することなどで、広く地域の国際理解や国際交流に寄与している。</p> <p>2 市立小学校 5・6年生で行われている外国語活動の時間に合わせて週1回程度配置し、担任教師と連携しながら、児童が楽しみながらコミュニケーション能力の素地を養えるよう活動を行った。学校の学級数により差があるため、一学級のA L T配置率は平均約40%となっている。</p> <p>3 市立幼稚園・けやき教室 月1回程度の配置で、英語を使った活動等を行い、国際理解教育の充実を図った。</p> <p>※J E Tプログラム…「語学指導等を行う外国青年招致事業」の略称 外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図り、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会（C L A I R）の協力の下に実施。</p>																			
成果		<p>A L Tを中学校、高等学校を中心に小学校・幼稚園・こども園・けやき教室に配置し、外国語活動や外国語教育、国際理解教育を推進することができた。引き続き概ね高い水準で授業を「楽しい」と感じる生徒の割合を維持できており、外国語や国際理解に関する学習に対するモチベーションを高めることに大いに貢献している。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A L Tとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）</td> <td>79.9%</td> <td>81.3%</td> <td>82.9%</td> <td>78.1%</td> </tr> </tbody> </table>										主な指標項目	H26	H27	H28	H29	A L Tとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）	79.9%	81.3%	82.9%	78.1%
主な指標項目	H26	H27	H28	H29																	
A L Tとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）	79.9%	81.3%	82.9%	78.1%																	
成果に係る評価		<p>毎回の授業にA L Tが配置されることが望ましく、次期学習指導要領改訂による小学校高学年の英語の教科化と中学年の外国語活動実施を見据え、適切な配置が可能となるよう段階的にA L Tを増員するとともに、小学校の学級数に応じた配置を進めていく。</p> <p>また、子どもたちが言葉や表現、文化の違いに触れ、外国の様々な文化や習慣への関心が高まるような働きかけができるよう、T Tによる授業の改善をすすめ、国際理解教育の充実を図っていく。</p>																			
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 小学校においても中学校においても、英語に関する比重が大きくなってきた気がします。J E Tについては、いろいろと活用を工夫されていることが伝わってきます。今後はNON-J E Tについても使いやすいものとするために、A L T配置事業者と交渉して契約を変えていくこともしなければならないと思います。</p> <p>また、成果として「楽しいと感じる生徒の割合」が出ていますが、目的には外国語教育と国際理解教育の充実を図るのであるため、成果に「楽しい」というデータを挙げても、それだけでは半分ではないかと思えます。</p> <p>A L Tは石巻市の広告塔にもなるような気がします。この方たちはいろんな情報網やつながりがあるので、石巻の良さを売り込むためにもA L Tを上手に活用していただければと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 国際感覚養成の外国語授業だと思います。子どもたちは一生懸命授業を受けていますが、授業参観をした私や保護者の方々が、目的等を理解できないところがありますので、A L T等との情報交換が必要ではないかと感じました。</p>																			

事業番号		7		事業名		国際理解教育推進事業						
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1項	教育総務費			基本施策5	現代社会に対応した教育の推進		第3節	新たな時代を創造する人材を育成する		()	
	3目	教育指導奨励費						(1)	広い視野を持つ人材をはぐくむ		()	
(単位：円)												
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳						
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源			
		55,287,540		54,224,464					54,224,464			

事業番号		8		事業名		サイエンスラボ事業				
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1 社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()
	1項	教育総務費					第3節	新たな時代を創造する人材を育成する		()
	3目	教育指導奨励費					(1)	広い視野を持つ人材をはぐくむ		()
目的及び事業内容		<p>児童生徒が科学への興味・関心を持ち、自ら自然を調べようとする態度や能力の育成を目指すとともに、教員の理科指導力の向上、石巻市の理科教育の充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 科学巡回教室の実施 2 教材・教具の開発及び教員への提供 3 学校・教員に対する相談活動・研修会の実施 4 「親と子の科学教室」の実施 5 企業や研究機関との連携 								
取組実績		<ol style="list-style-type: none"> 1 科学巡回教室の実施 「原子・分子の学習」、「宇宙の学習」、「科学実験」、「ものづくり」等を行い、市内25小学校、3中学校、1幼稚園、1こども園、市外1小学校で実施した。 2 教材・教具の開発及び教員への提供 平成28年度に引き続き、原子・分子の模型の作製や今年度の新プログラムとして太陽系の惑星の大きさを示す模型の作製を行い科学巡回教室で活用した。メダカの飼育にも取り組み、その卵を希望する小・中学校に提供した。 3 学校・教員に対する相談活動・研修会の実施 「科学巡回教室」で学校訪問をした際に、担当教師と情報交換を行った。また、「分子模型作製研修会」を実施し、教師の希望により基礎コース・発展コースに分かれ、分子模型作製を行った。 4 「親と子の科学教室」の実施 生涯学習課「まちなか実験室」と連携し、3小学校において「原子・分子の学習」「宇宙の学習」を実施した。 5 企業や研究機関との連携 (1) パナソニック㈱ 6小学校でLED工作教室を実施した。 (2) JAMSTEC（海洋研究開発機構）：河川港湾室との連携による。 市内3中学校でJAMSTEC出前授業を実施した。また、市内の理科教員を中心に、港湾感謝祭における「地球深部探査船『ちきゅう』」の見学を呼び掛けた。 								
成果		<ol style="list-style-type: none"> 1 市内小学校に加え、中学校、幼稚園、こども園についても幅広く科学巡回教室を開催した。小・中学生に限らず、幼児にも楽しく分かりやすく伝えることができた。 2 原子・分子の模型は、子どもたちにその世界をイメージさせるのに有効であった。 3 太陽系の惑星の大きさを実物に例えた模型は、地球との距離をイメージさせるのに役立った。 4 今年度より「分子模型作製研修会」を基礎コースと発展コースに分けて実施したことで、教員にとって授業に生かすことができる教材作製ができ、深みのある研修となった。 5 科学巡回教室の発展型として、10種類の分子の模型作りを行った。説明書付きのケースに入れて持ち帰れるという特典もあり、製作活動を通して空気中の分子に対する理解を深めることができた。 6 LED工作教室では、希望する学校が増え、オリジナルランプづくりを通して、ものづくりの楽しさを実感するとともに、環境への意識を高めることができた。また、JAMSTEC出前授業では、専門の研究員が講師を務め、地球深部の構造や深海の様子、地震のメカニズム等について、理解を深めることができた。 								
成果に係る評価		<ul style="list-style-type: none"> ○ 本事業2年目となり、その趣旨や内容が各学校や関係機関に浸透し、各方面での活用が図られた。科学巡回教室では、小学校に加え、中学校や幼稚園・こども園で実施された。今後も内容やプログラムを検討・充実させていく必要がある。 ○ 2人のサイエンススーパーバイザーの体制で見通しをもって業務に従事できるようになった。教材教具の開発や教員への相談活動、研修会の実施については、平成30年度以降も一層の充実に努めていく。 ○ 企業や関係機関、また、他課・室との連携により、事業に広がりや深まりをもたせることができた。今後も継続して連携し、子どもたちに科学や自然の魅力を伝えるとともに、理科教育の充実に資する取組を展開していく。 								
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 2年目で事業が充実してきていると感じます。私も理科教員でしたから、理科教育の充実ということは本当に待ちに待っていたことです。これからも予算を確保して充実させてほしいと思います。 成果の1にあるように、小・中学生になる前のより小さな子どもに、科学の面白さ楽しさの種をまいてあげることは、非常に大事なことです。小・中学校が中心の事業かもしれませんが、どうかその下の子どもたちにも力を入れてほしいと思います。 また、専門的な力量を持っている桜坂高校の理科教員を、この事業に活用できないかと思いました。</p> <p>【永沼紀男氏】 学校内だけではなく外に出る授業もあるようなので、準備が大変でしょうが頑張してほしいと思います。</p>								

事業番号		8		事業名		サイエンスラボ事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1項	教育総務費		基本施策1	確かな学力の育成		第3節	新たな時代を創造する人材を育成する		()	
	3目	教育指導奨励費					(1)	広い視野を持つ人材をはぐくむ		()	
(単位:円)											
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳					
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
		6,080,000	5,151,044			500,000	4,651,044				

事業番号		9		事業名		心のケア充実事業（震災心のサポート事業）					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第 章		復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	1項	教育総務費		基本施策2	豊かな心の育成		第 節			(1)	未来の人を育てる
	7目	東日本大震災関係費					()			(3)	子どものケアの実施
目的及び事業内容		<p>1 児童精神科医による巡回相談及び健康実態調査業務 震災により、心に深い傷を受けた園児、児童生徒等に対し、医療専門家による巡回相談や健康実態調査を行い、よりきめ細やかな心のケアを実施する。</p> <p>2 震災心の支援室業務 震災により、死亡又は行方不明となった児童生徒の御遺族に対して、相談員、臨床心理士による個別相談等の支援活動を実施する。</p>									
取組実績		<p>1 児童精神科医による巡回相談及び健康実態調査業務 (1) 医療専門家による巡回相談の実施・・・震災直後から支援に入っている国立国際医療研究センター国府台病院（千葉県）の児童精神科の医師が定期的に来石し、要請に基づいて、問題を抱えた児童生徒やその保護者、教員に対する相談活動を行った。 (2) 園児、児童生徒に対する健康実態調査の実施・・・市立幼稚園、小・中学校及び高等学校の全園児、児童生徒に対して震災直後から「健康実態調査」を行い、震災後の園児、児童生徒の心身の健康状態やトラウマに関するデータを集約した。結果については、すべての園・学校に個別に児童精神科医が説明をしながらフィードバックを行い、校内での指導・支援に役立てた。 (3) 園児、児童生徒等の心のケアに携わる者が一体となった心の支援体制の確立・・・関係機関が集まり、児童精神科の医師がスーパーバイザーとなって問題を抱える子どもたちに対するケース会議を年8回12ケースについて行った。</p> <p>2 震災心の支援室事務 希望による個別訪問、電話、来室相談等の実施、交流会の開催、関係機関との連絡調整、支援室だよりの発行、支援室会議、ケース会議の開催</p>									
成 果		<p>1 児童精神科医による巡回相談及び健康実態調査業務 (1) ほぼ毎月、1名の児童精神科の医師が2～3日間石巻市に滞在し、要請のあった学校及び家庭等を訪問し、相談活動を行った。専門的な立場からアドバイスをし、支援や指導に役立てているとともに、適切な医療機関につながったケースもある。平成29年度は、21日間にわたって、延べ69件の相談に対応した。 (2) 児童精神科医が、平成23年度から継続して実態調査を行い、データに基づいて、支援や指導のアドバイスを行っている。トラウマについては、平成25年度以降大きな変化は見られないことから、全体としては落ち着いている状態である。フィードバックの際は、学校ごとに面談し、全体の傾向、配慮を要する児童生徒についての助言があり、学校の指導に大いに生かされている。 (3) ほぼ毎月、「石巻市子ども支援関係者会議」を開催し、関係機関が出席して問題を抱える児童生徒のケース会議を行い、支援に役立てている。 (メンバー) 国府台病院児童精神科医師、精神科医師、ソーシャルワーカー、児童相談所、虐待防止センター、健康推進課等関係課、スクールソーシャルワーカー、学校教育課、当該学校職員等</p> <p>2 震災心の支援室事務 相談員・臨床心理士による個別訪問や電話、来室によりお話しをお伺いすることや、御遺族からの要望を受けての交流会の開催や支援室だよりの発行、支援室会議、ケース会議の開催</p>									
成果に係る評価		<p>1 児童精神科医による巡回相談、ケース会議及び健康実態調査業務 各学校、園では、巡回相談、ケース会議及び健康実態調査の結果を児童生徒の対応に生かしている。特に、配慮を要する児童生徒の対応について、専門医の意見や助言を得ることができることから、児童生徒、保護者、教員にとってニーズの高いものであり、今後も事業の継続が必要である。</p> <p>2 震災心の支援室事務 御遺族に対する心の支援はまだ決して十分とは言えない状況であり、御遺族ごとに希望される支援も様々に変化している。引き続き交流会の開催や生活に関する相談等、御遺族に寄り添った細やかなサポートを継続して行うことが重要である。</p>									
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 国府台病院の先生に大変な回数をご来石いただき、まだまだ続いているのだなど。直接震災体験をしていない子ども、間接的に体験した子ども、教員、すべてを含めて継続して事業を進めていかなければならないと強く感じました。 自然災害は人間の力ではどうにもならないけれども、震災で身近な人を失うという心の傷はものすごく深いと感じました。昨年度は関係した子どもが高校を卒業するまでは事業を続けてほしいと言いましたが、それだけではなく、もっと続けていかなければならないと感じました。 今の子どもが親になったときにその子どもに影響してくると思うので、きちんとケアをすべきです。このタイミングをずらしたら、とんでもない結果が将来出てくるのではないかと感じています。大変かと思いますが、国府台病院の先生と連携して更に充実してほしいと思います。</p>									

事業番号		9		事業名		心のケア充実事業（震災心のサポート事業）					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第章		復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	1項	教育総務費		基本施策2	豊かな心の育成		第節			(1)	未来の人を育てる
	7目	東日本大震災関係費					()			(3)	子どものケアの実施
学識経験者からの意見		<p>【永沼紀男氏】 この事業推進は本当に大変なことだと思います。震災から7年半近くになり、状況は少しずつ変わってきていますが、よく将来を見据えて頑張っていただきたいと思います。</p>									
(単位：円)											
予算の執行状況	予算額		決算額		決算額の財源内訳						
					国(県)支出金	地方債	その他	一般財源			
	7,000,000		5,782,014				5,782,014				

事業番号		10		事業名		防災教育充実事業						
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第章		復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	1項	教育総務費			基本施策4	防災教育の充実		第節			(1)	未来の人を育てる
	3目 7目	教育指導奨励費 東日本大震災関係費						()			(3)	子どものケアの実施
目的及び事業内容		<p>地域ぐるみの防災教育の実践を通して、非常時においても地域との絆が生かされる基盤を形成し、子どもにとって安心、安全な地域環境づくりを進めるとともに、教材等の作成を通して、児童生徒が災害と向き合い、たくましく生きる災害対応力の育成を促進する。</p> <p>1 地域ぐるみの防災教育の推進 2 児童生徒の災害対応力を育成するための教材等の作成</p>										
取組実績		<p>1 学校防災推進会議の設置と協議 有識者、学校関係者、市担当部局、関係機関担当で構成する学校防災推進会議において、市としての学校防災の今後の在り方について協議を行い、協議結果を基に具体的な事業を展開した。主な事業としては、「安全担当主幹教諭や防災主任を対象とした研修会の実施」、「学校防災フォーラムの開催」、「地域防災連絡会設置の促進」、「防災教育副読本の発行」、「学校防災マニュアルのチェックリストによる点検及び改善の指導」、「避難訓練学校訪問」、「大川小学校事故検証報告書の提言に関する取組状況調査」、「クロスロード石巻版教職員編の作成」を行った。</p> <p>2 緊急地震速報受信機を活用した避難訓練 児童生徒が災害から自らを守るために主体的に行動する力を育成することをねらいとして、緊急地震速報受信機を導入し、緊急地震速報を活用した避難訓練を実施した。</p> <p>3 防災教育副読本の発行 本市の実態に即した防災教育推進のため、防災教育副読本を市内全児童生徒に配布した。また、平成32年度版防災教育副読本の全面改訂に向けて、防災教育副読本の活用状況調査を実施した。 <平成30年度版発行実績> (小学校)1年生 1,200冊 4年生 1,200冊 (中学校)1年生 1,200冊</p>										
成果		<p>1 学校防災推進会議では、3つのワーキンググループごとに、具体的な事業を実践した。「学校防災マニュアル」については、チェックリストによる点検及び改善の指導を行ったことで、学校防災マニュアルの充実が図られた。「地域防災連絡会の設置促進」については、設置率は、平成26年度は62.5%、平成27年度は77%、平成28年度は80.3%、平成29年度は84.7%と向上してきている。「学校防災フォーラム」では、復興・防災マップづくりの発表やパネルディスカッション、学校防災マニュアル等の展示発表を通して石巻スタイルを発信することができた。「避難訓練学校訪問」では、市内全学校園を訪問し、指導・助言を行ったことで、学校が立地する地域で、予想される災害を想定した避難訓練や想定外の事態を設定した避難訓練も実施され、災害に対する危機意識が高まっている。</p> <p>2 緊急地震速報受信機を活用した避難訓練では、設置校29校において実践的な避難訓練が実施されている。緊急地震速報を聞くと緊張感が生まれ、児童生徒は臨場感をもって訓練に取り組むことができています。</p> <p>3 防災教育副読本は全ての小・中学校で活用されている。また、防災学習の時間は、平均で小学校14時間、中学校で13時間となっており、災害に対する知識や災害対応力が向上している。</p>										
成果に係る評価		<p>1 各学校の避難訓練では、「地震」、「地震・津波」を想定した避難訓練を実施する学校が多くみられた。また、地震が引き起こす災害を想定した、「地震・火災」、「地震・原子力」の避難訓練のほか、各校の立地条件から災害を想定した「洪水」、「土砂災害」の避難訓練が実施されている。今後も児童生徒の災害対応力の育成を図るため、より実践的な避難訓練を実施する必要がある。</p> <p>2 各校の防災マニュアルは、チェックリストによる点検及び改善指導を継続することで、あらゆる災害に対して、学校が対応できるように、さらに整備を進めたい。</p>										
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 前年度と比べてより充実した事業になっていると感じました。最大被災地の石巻地域だからこそ、防災教育の充実、他の地域への発信が必要になると思います。更なる充実をお願いします。 小・中学校における防災教育の時間を生み出すことは、学校現場としては大変なことだと思いますが、この地域だからこそ防災教育に力を入れていかなければなりません。子どもたちが大きくなったときに、このときの学びが生きて思うのです。各学校に防災教育の重要性を下ろして、確実な実践をするよう指導してほしいと思います。 また、実際に防災行政に携わってきた方が、学校安全推進課長に就かれたことも大事なことだと思います。 防災教育については、地域住民と比べると小・中学生の方がよほどレベルが高いと感じています。市総合防災訓練や地域の防災訓練に子どもたちが地域の人たちと一緒に参加して、子どもたちの持っているノウハウを生かし、地域のために動けるような機会を作るよう学校にも指導してほしいと思います。 地域ぐるみの防災教育を充実させるには、教育委員会だけではどうにもならないので、市長部局にも働きかけてどんどん動かしてほしいと思います。</p>										

事業番号		10		事業名		防災教育充実事業						
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第章		復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	1項	教育総務費			基本施策4			防災教育の充実	第節			(1)
	3目7目	教育指導奨励費 東日本大震災関係費						()			(3)	子どものケアの実施
学識経験者からの意見		<p>【永沼紀男氏】</p> <p>震災復興に関する工事の影響で、学校によっては周辺がまだ落ち着かない状況であるため、防災教育副読本や訓練方法も見直しが必要になると思います。各学校の防災教育については、次のとおり提言します。</p> <p>1 マニュアルやチェックリスト、副読本等、書面で作成するものは実態に合わせて要点を重視し、できるだけスリムにしてください。</p> <p>2 保護者、家族、地域の方々の訓練参加を推進し、作成したマニュアル等の内容について意見を聴くことも実行すべきと思います。</p>										
(単位：円)												
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳						
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源			
		4,438,000		3,884,060		648,000		1,896,860	1,339,200			

事業番号		11		事業名		学校給食センター運営事業																																																																																											
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																																																																						
	7項	保健体育費			基本施策3	健やかな体の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																																																																																						
	3目	学校給食費						(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																																																																																						
目的及び事業内容		<p>児童・生徒に豊かで栄養バランスのとれた食事を提供し、心身の健全な育成に資する。学校給食を通じて望ましい食生活習慣の基盤形成を促すとともに、会食をとおして豊かな人間関係を育成する。</p> <p>地場産物を使い地域の特色を生かした学校給食を提供することにより、地域の産物や食文化を理解し、尊重する心を育てる。</p>																																																																																															
取組実績		<p>学校給食実施状況（平成30年1月1日現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>学校・園数</th> <th>児童・生徒・園児数</th> <th>給食形態</th> <th>調理場方式</th> <th>給食実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>34校</td> <td>6,569人</td> <td>完全給食</td> <td>共同調理場方式</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>19校</td> <td>3,759人</td> <td>完全給食</td> <td>共同調理場方式</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>幼稚園</td> <td>2園</td> <td>125人</td> <td>完全給食</td> <td>共同調理場方式</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">センター名</th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th colspan="2">幼稚園</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>対象校数</th> <th>児童数</th> <th>対象校数</th> <th>生徒数</th> <th>対象園数</th> <th>園児数</th> <th>対象校・園数</th> <th>児童・生徒・園児数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住吉学校給食センター</td> <td>3校</td> <td>892人</td> <td>3校</td> <td>777人</td> <td></td> <td></td> <td>6校</td> <td>1,669人</td> </tr> <tr> <td>河北学校給食センター</td> <td>9校</td> <td>881人</td> <td>5校</td> <td>533人</td> <td>2園</td> <td>125人</td> <td>16校(園)</td> <td>1,539人</td> </tr> <tr> <td>河南学校給食センター</td> <td>6校</td> <td>962人</td> <td>2校</td> <td>486人</td> <td></td> <td></td> <td>8校</td> <td>1,448人</td> </tr> <tr> <td>東学校給食センター</td> <td>16校</td> <td>3,834人</td> <td>9校</td> <td>1,963人</td> <td></td> <td></td> <td>25校</td> <td>5,797人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34校</td> <td>6,569人</td> <td>19校</td> <td>3,759人</td> <td>2園</td> <td>125人</td> <td>55校(園)</td> <td>10,453人</td> </tr> </tbody> </table>										区分	学校・園数	児童・生徒・園児数	給食形態	調理場方式	給食実施率	小学校	34校	6,569人	完全給食	共同調理場方式	100%	中学校	19校	3,759人	完全給食	共同調理場方式	100%	幼稚園	2園	125人	完全給食	共同調理場方式	100%	センター名	小学校		中学校		幼稚園		計		対象校数	児童数	対象校数	生徒数	対象園数	園児数	対象校・園数	児童・生徒・園児数	住吉学校給食センター	3校	892人	3校	777人			6校	1,669人	河北学校給食センター	9校	881人	5校	533人	2園	125人	16校(園)	1,539人	河南学校給食センター	6校	962人	2校	486人			8校	1,448人	東学校給食センター	16校	3,834人	9校	1,963人			25校	5,797人	計	34校	6,569人	19校	3,759人	2園	125人	55校(園)	10,453人
区分	学校・園数	児童・生徒・園児数	給食形態	調理場方式	給食実施率																																																																																												
小学校	34校	6,569人	完全給食	共同調理場方式	100%																																																																																												
中学校	19校	3,759人	完全給食	共同調理場方式	100%																																																																																												
幼稚園	2園	125人	完全給食	共同調理場方式	100%																																																																																												
センター名	小学校		中学校		幼稚園		計																																																																																										
	対象校数	児童数	対象校数	生徒数	対象園数	園児数	対象校・園数	児童・生徒・園児数																																																																																									
住吉学校給食センター	3校	892人	3校	777人			6校	1,669人																																																																																									
河北学校給食センター	9校	881人	5校	533人	2園	125人	16校(園)	1,539人																																																																																									
河南学校給食センター	6校	962人	2校	486人			8校	1,448人																																																																																									
東学校給食センター	16校	3,834人	9校	1,963人			25校	5,797人																																																																																									
計	34校	6,569人	19校	3,759人	2園	125人	55校(園)	10,453人																																																																																									
成果		<ol style="list-style-type: none"> 学校給食を通じて、児童・生徒に栄養バランスのとれた食事を提供することができた。 学校給食に地場産物を活用し、また、地域の郷土食や行事食を提供することができた。特に伝統的地域特性を生かしたものでは、鯨肉を使用した給食を提供することができた。 平成30年2月に石巻西学校給食センターの解体が完了し、平成30年3月に東松島市へ整地した土地の返還が完了した。 給食費の未納対策に関し、分割による納付誓約の不履行者について、家庭訪問や電話連絡による督促を実施し、納付計画に滞りのないよう努めた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="3">現年度分</th> <th colspan="3">過年度分</th> </tr> <tr> <th>滞納学校数</th> <th>滞納者数</th> <th>滞納繰越額</th> <th>滞納学校数</th> <th>滞納者数</th> <th>滞納繰越額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>20校</td> <td>53人</td> <td>1,480,345円</td> <td>33校</td> <td>311人</td> <td>27,752,146円</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20校</td> <td>53人</td> <td>1,723,384円</td> <td>37校</td> <td>324人</td> <td>28,115,902円</td> </tr> <tr> <td>比較増減</td> <td>0校</td> <td>0人</td> <td>243,039円</td> <td>4校</td> <td>13人</td> <td>363,756円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※滞納者数は保護者の人数</p>										年度	現年度分			過年度分			滞納学校数	滞納者数	滞納繰越額	滞納学校数	滞納者数	滞納繰越額	H28	20校	53人	1,480,345円	33校	311人	27,752,146円	H29	20校	53人	1,723,384円	37校	324人	28,115,902円	比較増減	0校	0人	243,039円	4校	13人	363,756円																																																				
年度	現年度分			過年度分																																																																																													
	滞納学校数	滞納者数	滞納繰越額	滞納学校数	滞納者数	滞納繰越額																																																																																											
H28	20校	53人	1,480,345円	33校	311人	27,752,146円																																																																																											
H29	20校	53人	1,723,384円	37校	324人	28,115,902円																																																																																											
比較増減	0校	0人	243,039円	4校	13人	363,756円																																																																																											
成果に係る評価		<p>「生きた教材」として毎日の給食を提供することは、望ましい食習慣を身に付けさせることの一助となっている。また、地元の食材や郷土食等を提供することにより、地域の産業や伝統・文化に対する理解と関心を深めることができた。</p> <p>石巻西学校給食センターの施設敷地借用に係る土地の返還については、東松島市と締結している協定書に基づき、遅延することなく期限内に返還をすることができた。</p> <p>給食費の未納対策に関し、過年度分については、家庭訪問等で滞納者へ接触する機会をより多くし、納付相談・指導を行ったが、対象者を限定しての対応であり、滞納者全体への対応が出来ていないのが現状となっているため、取り組みの強化が必要となっている。</p>																																																																																															
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 目的の陰に隠れている部分に献立作りがあります。バランスのとれたメニュー、適切なカロリー、それからおいしさ。より多くの子どもたちの舌を満足させるようなおいしさのため、食材の選定から取扱い業者との関わり合いについて、給食センターの栄養士の力量が求められてくると思います。安全安心の給食のため、何事もなく当たり前というところをクリアして、初めてこの事業の目的が達成されるのだらうと思います。安全安心も含めてさらに工夫し、充実させてほしいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 子どものことを考え、少しでも良い給食をと考え努力されている中、これだけの滞納者と滞納額を知れば、関係者に対して申し訳ないし、給食費を納めている保護者にも不公平感を持たれる方が多くいます。早く対策をするようお願いいたします。</p>																																																																																															

事業番号		11		事業名		学校給食センター運営事業				
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標1	社会を生き抜く力の養成	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()
	7項	保健体育費		基本施策3	健やかな体の育成		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()
	3目	学校給食費					(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()
(単位：円)										
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳				
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
		1,004,996,000	975,295,807		98,400,000	533,335,178	343,560,629			

事業番号		12		事業名		協働教育推進事業																																																																	
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標3	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																																												
	6項	社会教育費			基本施策2			地域との連携・協働の強化	第2節		地域全体で子どもたちを育成する	()																																																											
	1目	社会教育総務費						(1)	地域・家庭の教育力を強化する		()																																																												
目的及び事業内容		<p>学校・家庭・地域が協働して、子どもたちの生きる力を育む教育活動の充実・改善を目指し、社会の中でたくましく生きる子どもを地域全体で育むことを目的とする。また、実施校における成果と課題を広く市内の小学校等に情報提供することで、市内における協働教育推進気運の醸成と協働教育の充実・改善につなげるものとする。</p> <p>石巻の自然・産業・歴史等の素材を資源として、様々な体験活動を通じて地域の自然や伝統文化などの学習機会を創出する。地域の教育力と郷土の自然、文化、企業等を活用し、体験的に学ばせることにより、豊かな心を育む教育活動を推進する。</p>																																																																					
取組実績		<p>協働教育推進事業 活動実績（市内9学校区推進協議会で実施）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校区名</th> <th>事業回数</th> <th>参加ボランティア延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 蛇田小学校区</td><td>70回</td><td>88人</td></tr> <tr><td>2 貞山小学校区</td><td>31回</td><td>147人</td></tr> <tr><td>3 万石浦小学校区</td><td>51回</td><td>772人</td></tr> <tr><td>4 渡波中学校区</td><td>204回</td><td>1,399人</td></tr> <tr><td>5 東浜小学校区</td><td>6回</td><td>33人</td></tr> <tr><td>6 大谷地小学校区</td><td>24回</td><td>46人</td></tr> <tr><td>7 北上小学校区</td><td>13回</td><td>50人</td></tr> <tr><td>8 青葉中学校区</td><td>31回</td><td>740人</td></tr> <tr><td>9 牡鹿中学校区</td><td>7回</td><td>581人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>437回</td><td>3,856人</td></tr> </tbody> </table> <p>ふるさと子どもカレッジ 活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 開校式、硯上山登山、森林公園</td><td>6月24日（土）</td><td>18人</td></tr> <tr><td>2 川遊び体験（北上川川下り・流しソーメン）</td><td>7月23日（日）</td><td>17人</td></tr> <tr><td>3 石巻魚市場、石ノ森萬画館、旧観慶丸商店見学</td><td>8月24日（木）</td><td>19人</td></tr> <tr><td>4 星空観察、ジュニアリーダーと活動</td><td>9月23日（土）</td><td>17人</td></tr> <tr><td>5 企業訪問</td><td>10月28日（土）</td><td>12人</td></tr> <tr><td>6 郷土料理づくり</td><td>11月18日（土）</td><td>14人</td></tr> <tr><td>7 石巻専修大学出前授業</td><td>12月16日（土）</td><td>8人</td></tr> <tr><td>8 ヨシ刈り体験、神割崎等見学、閉校式</td><td>1月27日（土）</td><td>14人</td></tr> </tbody> </table>										学校区名	事業回数	参加ボランティア延べ人数	1 蛇田小学校区	70回	88人	2 貞山小学校区	31回	147人	3 万石浦小学校区	51回	772人	4 渡波中学校区	204回	1,399人	5 東浜小学校区	6回	33人	6 大谷地小学校区	24回	46人	7 北上小学校区	13回	50人	8 青葉中学校区	31回	740人	9 牡鹿中学校区	7回	581人	合計	437回	3,856人	活動内容	開催日	参加者数	1 開校式、硯上山登山、森林公園	6月24日（土）	18人	2 川遊び体験（北上川川下り・流しソーメン）	7月23日（日）	17人	3 石巻魚市場、石ノ森萬画館、旧観慶丸商店見学	8月24日（木）	19人	4 星空観察、ジュニアリーダーと活動	9月23日（土）	17人	5 企業訪問	10月28日（土）	12人	6 郷土料理づくり	11月18日（土）	14人	7 石巻専修大学出前授業	12月16日（土）	8人	8 ヨシ刈り体験、神割崎等見学、閉校式	1月27日（土）	14人
学校区名	事業回数	参加ボランティア延べ人数																																																																					
1 蛇田小学校区	70回	88人																																																																					
2 貞山小学校区	31回	147人																																																																					
3 万石浦小学校区	51回	772人																																																																					
4 渡波中学校区	204回	1,399人																																																																					
5 東浜小学校区	6回	33人																																																																					
6 大谷地小学校区	24回	46人																																																																					
7 北上小学校区	13回	50人																																																																					
8 青葉中学校区	31回	740人																																																																					
9 牡鹿中学校区	7回	581人																																																																					
合計	437回	3,856人																																																																					
活動内容	開催日	参加者数																																																																					
1 開校式、硯上山登山、森林公園	6月24日（土）	18人																																																																					
2 川遊び体験（北上川川下り・流しソーメン）	7月23日（日）	17人																																																																					
3 石巻魚市場、石ノ森萬画館、旧観慶丸商店見学	8月24日（木）	19人																																																																					
4 星空観察、ジュニアリーダーと活動	9月23日（土）	17人																																																																					
5 企業訪問	10月28日（土）	12人																																																																					
6 郷土料理づくり	11月18日（土）	14人																																																																					
7 石巻専修大学出前授業	12月16日（土）	8人																																																																					
8 ヨシ刈り体験、神割崎等見学、閉校式	1月27日（土）	14人																																																																					
成果		<p>保護者や地域の方々他、地元企業やNPO団体等の協力を得ながら推進したことにより、児童・生徒にとってより有意義な活動を実施することができた。また、新たな人材との出会いにつながった。</p> <p>ふるさと子どもカレッジは、石巻の各地域にある豊かな自然、産業、歴史等の資源に目を向けて、全8回シリーズとして講座を開設した。参加者が自ら見聞きし、体験することにより郷土に対する理解を深めるとともに、普段自ら訪れることのない場所で活動することにより、新たな発見をする貴重な機会となった。</p>																																																																					
成果に係る評価		<p>協働教育を通して、子どもも大人も、地域防災や郷土芸能、地場産業などの理解を深めることができた。</p> <p>今後さらに協働教育を広げていくため、各学校区の取組を発信強化し、より多くの方々に理解してもらい、協力を得られるような働きかけが必要である。</p> <p>ふるさと子どもカレッジでは、各地域で活動を行っている企業や人材、気づかずに見過ごしている文化や史跡・自然に触れ、郷土の素晴らしさを再確認する良いきっかけとなった。参加者が募集人員に達していないため、より多くの参加を得られるよう募集方法について今後工夫が必要である。</p>																																																																					
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】</p> <p>子どもを育てるのは学校という短絡的な考えがまだ多い中、社会教育という視点から、学校と家庭と地域が連携して子どもを育てるといことは、非常に評価ができると思います。</p> <p>地域によって参加者数も事業回数も違うし、ボランティア人数にも随分差がありますが、それぞれの地域特性があると思うので、多ければよいという評価はしないように、地道に継続して事業を進めてほしいと思います。</p> <p>また、ふるさと子どもカレッジにおいて、工夫をしながら参加者を増やしていることは評価できます。</p> <p>【永沼紀男氏】</p> <p>この事業に参加した子どもたちが、大きくなってから次のボランティアとして出てくるように育ててもらいたいと思います。その必要があることを、理解できる高学年に教えてもらえればよいと思っています。</p>																																																																					

事業番号		12		事業名		協働教育推進事業								
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標3	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり		総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち		復興計画	()	
	6項	社会教育費			基本施策2	地域との連携・協働の強化			第2節	地域全体で子どもたちを育成する			()	
	1目	社会教育総務費							(1)	地域・家庭の教育力を強化する			()	
(単位：円)														
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳								
						国(県)支出金		地方債		その他		一般財源		
		2,394,000		1,676,856		1,676,856		0		0		0		

事業番号		13		事業名		放課後子ども教室推進事業																									
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標3	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																				
	6項	社会教育費			基本施策2	地域との連携・協働の強化		第2節	地域全体で子どもたちを育成する		()																				
	1目	社会教育総務費						(1)	地域・家庭の教育力を強化する		()																				
目的及び事業内容		市内小学校区において、公共施設等を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。																													
取組実績		<p>1 放課後子ども教室推進事業</p> <p>①「和小っ子クラブ」（河南地域住民自治協議会和渚地区部会へ運営を依頼） ・登録児童数：50人 ・登録ボランティア数：25人</p> <p>②「上釜子ども教室」（上釜町内会、NPO法人にじいろクレヨンへ運営を依頼） ・対象児童：上釜子ども会70人（自由参加） ・登録ボランティア数：13人</p> <p>③「放課後子ども教室Bremen」（放課後児童クラブBremenへ運営を依頼） ・対象児童：石巻小学校区児童（自由参加） ・登録ボランティア数：13人</p> <p>2 放課後子ども教室の活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>日数</th> <th>参加児童延べ人数</th> <th>参加ボランティア延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①和小っ子クラブ（宿題・自由学習・工作など）</td> <td>32日</td> <td>1,396人</td> <td>386人</td> </tr> <tr> <td>②上釜子ども教室（伝統行事体験・地域学習など）</td> <td>10日</td> <td>98人</td> <td>87人</td> </tr> <tr> <td>③放課後子ども教室Bremen（伝統文化活動など）</td> <td>14日</td> <td>147人</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,641人</td> <td>543人</td> </tr> </tbody> </table>										活動内容	日数	参加児童延べ人数	参加ボランティア延べ人数	①和小っ子クラブ（宿題・自由学習・工作など）	32日	1,396人	386人	②上釜子ども教室（伝統行事体験・地域学習など）	10日	98人	87人	③放課後子ども教室Bremen（伝統文化活動など）	14日	147人	70人	計		1,641人	543人
活動内容	日数	参加児童延べ人数	参加ボランティア延べ人数																												
①和小っ子クラブ（宿題・自由学習・工作など）	32日	1,396人	386人																												
②上釜子ども教室（伝統行事体験・地域学習など）	10日	98人	87人																												
③放課後子ども教室Bremen（伝統文化活動など）	14日	147人	70人																												
計		1,641人	543人																												
成果		<p>和小っ子クラブは、毎週木曜日の放課後に活動している。地域にも定着し、和渚小学校児童の約半数が参加している。多くのボランティアとともに様々なプログラムを体験し、楽しく活動に取り組むことができた。また、縦割り班でグループを編成しているので、自然と上級生が下級生の子どもの面倒を見るようになり、思いやりの心が育ってきている。地域ボランティアの方々には活動を楽しみにし、子どもたちとのふれあいを喜んでいる。</p> <p>上釜子ども教室は、地域の子どもの地域で育てるという考えのもと、ボランティアの方々が、地域の伝統や行事などを熱心に指導した。プログラムは地域素材を活用し地域の工場・施設見学や歴史学習など、地域に密着した活動を多く取り入れ、地域を愛する子どもの育成につながっている。</p> <p>放課後子ども教室Bremenは、平成29年度より開設した。放課後児童クラブBremenのスタッフを中心に地域住民を巻き込み、子どもたちの安全、安心な居場所作りを行っている。プログラムは、様々なジャンルの方に講師を依頼していることから多彩であり、特に、読書や将棋などの伝統文化活動、英会話などへの関心が高まっている。</p>																													
成果に係る評価		<p>地域の人々の参画を得て、放課後や休日を活用した学習活動や体験活動、異年齢交流などを行いながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保することができた。地域の人々に見守られながら体験活動をやり遂げることで学習意欲が向上するとともに、異年齢交流をとおして思いやりの気持ちが育つなど子どもたちの姿に変容が見られる。</p> <p>地域の人々も、子どもたちの教育に協力を惜みず、子どもたちとともに放課後子ども教室に参画することに生きがいを見出しており、地域教育力の向上にも役立っている。</p>																													
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 学校が全てではなく、地域で子どもたちをしっかりと育てることを推進していくためには、大事な事業だと思います。</p> <p>ただ、どのような団体でもできるわけではなく、子どもたちの成果が出せるような団体でなければならないと思います。そのためにはボランティアの方々の方が力が大事で、子どもをきっちり掌握しコントロールできるか、良い方向に導ける人材がそろっているかということが大事になってくると思います。この点について実施団体に再度確認し、必要であれば指導をお願いしたいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 これらのグループの活動報告に参加させていただきましたが、経済的にも人材的にもやっとな行っている状況でした。逆に我々としてはもっと事業を大きくしてほしいのですが、その辺のジレンマもあるので、情報交換をよく行って何が必要なのか何が問題なのかを効率的に考えて、支援をどんどん進めてほしいと思います。</p>																													
		(単位：円)																													
予算の執行状況		予算額	決算額	決算額の財源内訳																											
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																								
		1,510,000	1,144,939	1,144,939																											

事業番号		14		事業名		スポーツ振興事業																																			
予算科目	10款	教育費		教育振興計画	施策目標4	豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進	総合計画	第5章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()																														
	7項	保健体育費			基本施策2			生涯にわたるスポーツ活動の推進	第4節		市民が個性を活かして輝ける機会をつくる	()																													
	1目	保健体育総務費						(2)	市民の主體的なスポーツ活動を支援する		()																														
	4目	体育館費																																							
目的及び事業内容		<p>市民の一体感の醸成・市民の健康づくりと交流促進・生涯スポーツ社会の実現・成人のスポーツ実施率の向上・青少年の健全育成と交流促進・スポーツ少年団加入率の向上・総合型地域スポーツクラブの拠点づくりを目的とし、いしのみき復興マラソン、いしのみき市民スポーツフェスタ、石巻市小学生リレーマラソン大会、いしのみきキッズ交流大会、キッズバラエティスポーツ教室、体育館スポーツ教室を実施している。</p>																																							
取組実績		<ol style="list-style-type: none"> いしのみき復興マラソン 全国に向けて復興した石巻市の姿を発信するために、第3回いしのみき復興マラソンを開催した。石巻専修大学を会場に、年齢、性別などに応じて、2k・3k・5k・10k・ハーフ等で18種目を実施した。 いしのみき市民スポーツフェスタ 気軽に参加できるスポーツを通し、市民の健康づくりと交流、地域間の連携の強化を図りながら成人のスポーツ実施率の向上を目指した。なお、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で実施している。 石巻市小学生リレーマラソン大会・いしのみきキッズ交流大会 市民の一体感を醸成する事業の一環として、市内小学校及びスポーツ少年団対抗のリレーマラソン大会を実施するもので、スポーツを通じた青少年の健全育成、子ども達の体力・運動能力の向上を目指し、平成24年度よりNPO法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」でいしのみきキッズ交流大会と合体して実施しており、更に市民スポーツ参加の一翼を担った。 キッズバラエティスポーツ教室 スポーツをしたいが、何をしたら良いかわからないという子どもたちに対して、多種目のスポーツ体験の場を提供するため、平成24年度よりNPO法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で実施している。子どもたちが自分に合った種目を見つけ出すことで、スポーツに取り組む機会の創出を図った。 体育館スポーツ教室 総合体育館で一般市民を対象にバドミントン・卓球教室を、NPO法人石巻市体育協会への委託事業として平成25年度より「協働」で実施している。楽しみながら基本的な技術を習得し、運動する喜びを感じて心身ともに健康な体づくりを目指し、受講生相互のコミュニティが形成された。 																																							
成果		<ul style="list-style-type: none"> 一大イベントであるいしのみき復興マラソンを継続して開催できた。 小学生リレーマラソン大会といしのみきキッズ交流大会を合同開催として実施した。 キッズバラエティスポーツ教室は昨年度同様、12種類のスポーツを2回ずつ行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>指標項目</th> <th>復興マラソン</th> <th>スポーツフェスタ</th> <th>小学リレーマラソン・いしのみきキッズ交流</th> <th>キッズバラエティ</th> <th>体育館教室</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td rowspan="3">参加者数</td> <td>3,631人</td> <td>112人</td> <td>263人</td> <td>1,173人</td> <td>1,136人</td> <td>6,315人</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>1,717人</td> <td>193人</td> <td>324人</td> <td>1,191人</td> <td>2,089人</td> <td>5,514人</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1,522人</td> <td>73人</td> <td>353人</td> <td>1,382人</td> <td>1,399人</td> <td>4,729人</td> </tr> </tbody> </table>										年度	指標項目	復興マラソン	スポーツフェスタ	小学リレーマラソン・いしのみきキッズ交流	キッズバラエティ	体育館教室	計	H27	参加者数	3,631人	112人	263人	1,173人	1,136人	6,315人	H28	1,717人	193人	324人	1,191人	2,089人	5,514人	H29	1,522人	73人	353人	1,382人	1,399人	4,729人
年度	指標項目	復興マラソン	スポーツフェスタ	小学リレーマラソン・いしのみきキッズ交流	キッズバラエティ	体育館教室	計																																		
H27	参加者数	3,631人	112人	263人	1,173人	1,136人	6,315人																																		
H28		1,717人	193人	324人	1,191人	2,089人	5,514人																																		
H29		1,522人	73人	353人	1,382人	1,399人	4,729人																																		
成果に係る評価		<p>いしのみき復興マラソンは、スポーツ振興事業の目玉と位置付け、震災時に寄せられた多くのご支援への感謝と復興状況を全国に伝えるべく実施している。平成29年度においては、地場産品のわかめうどん無料配布コーナーや復興パネル展、更には北限のオリーブ冠の贈呈などで県外参加者へPRを行った。今後も内容の充実化を図るため、実行委員会との協議を密にしなが、一層の工夫が必要である。また、各種スポーツ事業については、公園等への仮設住宅の立地により、依然として運動を行える場所が限られており、環境整備が急務である。</p> <p>今後とも、NPO法人石巻市体育協会との協働体制を継続しつつ、行政主導から民間主導への移行を図るとともに、「成人のスポーツ実施率の向上」や「子どもたちの体力と運動能力の向上」を目標に掲げ、本市の復興状況と照らし合わせながら、多くの市民が参加しやすい環境の整備や参加意識の向上に努めたい。</p>																																							
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 子どもから高齢者まで幅広い層でスポーツ振興を目指し、充実させようとする試みが伝わってきました。</p> <p>復興マラソンのネーミングの更新については、聖火台を返すということが一つの良いきっかけなのかもしれません。スポーツ振興事業として本気になって取り組むのであれば、聖火台を返すというきっかけを逃してしまうとやりにくくなると思いますので、ご検討をお願いします。</p> <p>いづれについても、スタッフが一生懸命取り組んでいるということは伝わってきました。更に充実させてほしいと思います。</p> <p>また、行政から民間への移行というのは大事なことだと思いますが、体育協会に市の考えを確実に浸透させるためにはどうすればよいかということ、しっかり確立して移行していけばもっと良くなると思います。</p>																																							

事業番号		14		事業名		スポーツ振興事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標 4	豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進	総合計画	第5章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()	
	7項	保健体育費		基本施策 2			生涯にわたるスポーツ活動の推進	第4節		市民が個性を活かして輝ける機会をつくる	()
	1目 4目	保健体育総務費 体育館費		(2)			市民の主体的なスポーツ活動を支援する	()			
学識経験者からの意見		<p>【永沼紀男氏】 引き続きNPO等と情報交換を密にして、効果的な事業推進をお願いします。 また、全国から震災支援に来てもらっている職員にも、これらの行事に参加してもらえようぜひ努力をしてください。</p>									
(単位：円)											
予算の執行状況	予算額		決算額		決算額の財源内訳						
					国(県)支出金	地方債	その他	一般財源			
		4,214,000		4,214,000					4,214,000		

事業番号		15		事業名		読書環境整備事業																												
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標4	豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進	総合計画	第5章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()																								
	6項	社会教育費		基本施策1			生涯学習の推進	第4節		市民が個性を活かして輝ける機会をつくる	()																							
	4目	図書館費		(1)	市民の主体的な学習活動を支援する		()																											
目的及び事業内容		<p>図書館法第3条に基づき、必要な資料を収集し市民の利用に供する。公立図書館は「図書、記録その他必要な資料・情報を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、市民の教育と文化の発展に寄与する」ことを目的としている。これらを踏まえ、市民の要望に応えるため、魅力ある図書資料や情報の収集・提供に努め、図書館サービスを推進する。</p>																																
取組実績		<p>1 新刊書や児童書を中心とした図書資料の購入・貸出 新刊書や児童書を中心に、図書館で選定した図書及び市民からのリクエストに基づいた図書資料を購入し、市民に提供した。</p> <p>2 レファレンス等による関連図書資料の貸出 レファレンス（調査・相談）業務に基づき、テーマに関連した図書資料を紹介するとともに、貸出を行った。</p> <p>3 子ども読書活動事業 「あかちゃんおはなし会」、「たのしいおはなし会」を毎月2回実施し、河北・桃生分館でも「おはなし会」を開催している。各事業ともボランティアとの協働により実施している。また、発達段階に応じ、「あかちゃん」、「3・4歳児」、「読み聞かせ」等に分類した絵本を配置して、絵本の選本を容易にし、利用しやすい環境作りを行った。</p> <p>4 子育て支援事業 子育て支援センターをはじめ各施設では、読み聞かせ、手遊び、わらべうたを通じて、読書習慣の重要性を周知し、保護者へは、成長に応じた絵本の選び方や読み聞かせの仕方を指導した。</p> <p>5 学校支援事業 学級貸出、学習支援貸出を実施し、また、学校図書館との連携強化のため、学校訪問により学校図書室が抱える問題などの調査や相談を受けた。一方で、学校図書館の充実に向け、学校司書への研修を行った。</p>																																
成果		<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度には357,021冊を数えた貸出冊数は、震災の影響により平成23年度には167,048冊まで激減したが、平成29年度280,433冊の貸出と回復しつつある。 図書の購入については、新刊、話題の図書及び児童書を中心に購入するとともに、郷土資料の収集に努め、市民からのリクエスト図書は購入や他館からの借受けで対応した。 東日本大震災に関する郷土資料を積極的に収集し、市民へ提供するとともに、後世に伝えられるように整備を行った。 館内でのレファレンスサービス提供により、市民の利便性向上を図った。 移動図書館サービスは仮設住宅の集約化が進む中、17か所（3月実績）を巡回して、被災者支援を図った。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書購入冊数</td> <td>5,957冊</td> <td>6,725冊</td> <td>6,761冊</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>291,341冊</td> <td>291,846冊</td> <td>280,433冊</td> </tr> <tr> <td>（うち移動図書館車）</td> <td>（15,430冊）</td> <td>（12,364冊）</td> <td>（7,762冊）</td> </tr> <tr> <td>リクエスト処理件数</td> <td>10,442件</td> <td>10,336件</td> <td>10,844件</td> </tr> <tr> <td>調査相談サービス</td> <td>1,389件</td> <td>1,687件</td> <td>1,945件</td> </tr> </tbody> </table>									主な指標項目	H27	H28	H29	図書購入冊数	5,957冊	6,725冊	6,761冊	貸出冊数	291,341冊	291,846冊	280,433冊	（うち移動図書館車）	（15,430冊）	（12,364冊）	（7,762冊）	リクエスト処理件数	10,442件	10,336件	10,844件	調査相談サービス	1,389件	1,687件	1,945件
主な指標項目	H27	H28	H29																															
図書購入冊数	5,957冊	6,725冊	6,761冊																															
貸出冊数	291,341冊	291,846冊	280,433冊																															
（うち移動図書館車）	（15,430冊）	（12,364冊）	（7,762冊）																															
リクエスト処理件数	10,442件	10,336件	10,844件																															
調査相談サービス	1,389件	1,687件	1,945件																															
成果に係る評価		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の貸出冊数については、図書館システム更新による休館期間が1か月あり、前年度を下回る結果になった。 各種事業をとおして、読書習慣の重要性を周知することができた。 学校司書の配置（一部の小・中学校）により、学校図書室との連携を強化できた。 移動図書館サービスは、仮設住宅団地からの退去が進むにつれ、利用者が減少してきている。今後は、仮設住宅団地の集約状況を注視しながら巡回場所を選定していきたい。 																																
学識経験者からの意見		<p>【横澤昌憲氏】 市民の豊かな心づくりや教養の涵養を図るものとして、図書館は大事な施設だろうと思います。新聞を毎日見ていると、昨年度は以前よりも図書館の記事が増えたような気がするのです。図書館の本を市民にどう利用させるかという工夫について、いろいろと取り組んでいると感じました。これからも市民へのPRを工夫して、利用したくなるような図書館づくりを目指してほしいと思います。</p> <p>【永沼紀男氏】 本事業の中でも、特にレファレンスサービスと学校支援事業を充実してほしいと思います。</p>																																

事業番号		15		事業名		読書環境整備事業					
予算科目	10款	教育費	教育振興計画	施策目標4	豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進	総合計画	第5章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()	
	6項	社会教育費		基本施策1			生涯学習の推進	第4節		市民が個性を活かして輝ける機会をつくる	()
	4目	図書館費					(1)	市民の主体的な学習活動を支援する		()	
(単位：円)											
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳					
						国(県)支出金		地方債		その他	
		12,000,000		12,000,000						12,000,000	